

## 姫路の城下町

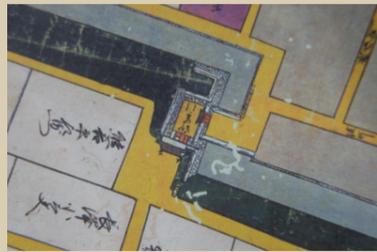
姫路は古代には国府があり、中世にも守護屋敷などが置かれた地である。現在の姫路の城下町は、その枠組みを一部残しつつ、播磨に封じられた池田輝政が、姫路城と共に新たに形成した町である。輝政は、姫山と鷲山にわたって築かれた姫路城の山麓を囲むように内堀、その周囲に城下町を配置し、その町を中堀と外堀で囲む総構の町を形成した。そして中堀の内に、上・中級武家屋敷や播磨国総社、外堀の内に、下級武家屋敷や寺町のほか街道に沿って町屋を配置する町割をおこなった。

### I 野里門

野里門は、姫路城中曲輪に設けられた11ヶ所の虎口のうち北東に位置する。絵図には、内門と外門を設けた枳形が描かれているが、現在は全て撤去されて砥堀本町線が南北方向に縦断している。また、北側の堀も埋められているため、旧状がほぼわからなくなっている。外曲輪から中曲輪へは、東から西に向かって中堀にかかった土橋を渡り、外門を通ると90度南に折れて内門を通り中曲輪へ入る構造になっている。外門は、脇門付高麗門、内門は脇門付櫓門で、外門内側に番所が置かれていた。平成5年度に実施された病院移転に伴う発掘調査で、埋められた堀の痕跡などが確認され、特別史跡指定範囲が追加された。



『大工源助倅 幾蔵図』に描かれた野里門（『幾蔵図冊』）



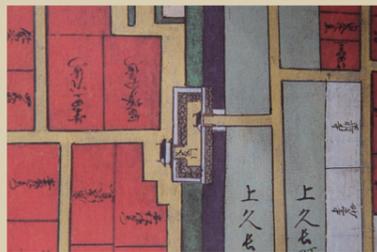
『姫路侍屋敷図（1751-1754）』に描かれた久長門



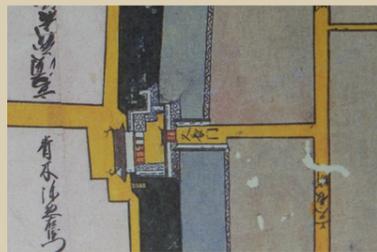
『姫路侍屋敷図』を現在の姫路市街図に重ね合わせた地図（城郭区）

### II 久長門

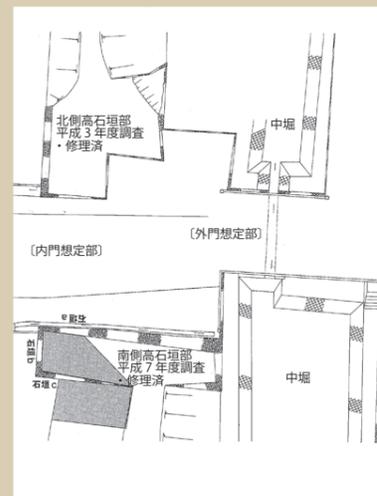
久長門は、中曲輪の東に位置する。野里門と同じく、内門と外門を設けた枳形構造を持つ。どちらも東向きに開くが、内門が南にずれているため、まっすぐ通り抜けることができず、通路は枳形内でかぎ型に折れ曲がる。外門は、脇戸付高麗門、内門は脇門付櫓門で、外門内側に番所が置かれていた。枳形石垣は、ほぼ旧状をとどめているが、外門脇の堀側壁面は完全に撤去され、南側石垣の東部は間知石の石など、近代以降の改変がみられる。平成3年度、7年度に石垣保存修理が実施された。



『姫路御城廻侍屋敷新絵図（1649～1667）』に描かれた久長門



『姫路侍屋敷図（1751-1754）』に描かれた久長門



久長門平面図特別史跡姫路城跡石垣修理工事報告書（4）（1996 姫路市教育委員会）



#### 高麗門

二本の主柱の上に切妻屋根をのせ、主柱内側の控柱にも屋根を付けた単層の門。



#### 櫓門

門の上に横長の多間櫓をのせた二ないし三層の門。

#### 姫路市立城郭研究室

〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-258日本城郭研究センター内  
TEL (079)289-4877 / FAX (079)289-4890  
URL <https://www.city.himeji.lg.jp/jyokakukuen/>

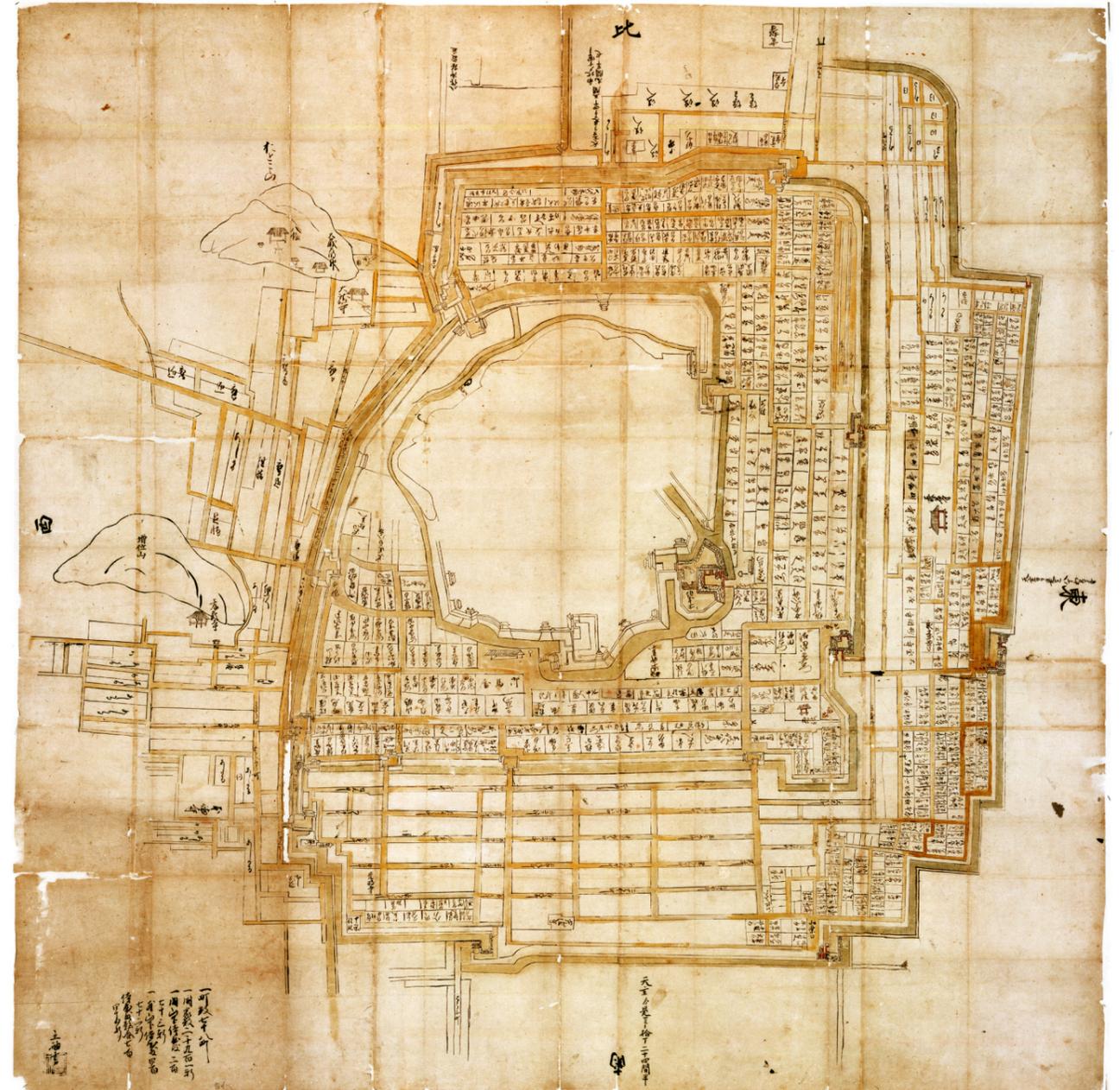
#### 姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center  
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1  
TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952  
URL <https://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/>

令和6年（2024年）12月21日発行

城下町絵図（『姫路城下町絵図』、『姫路侍屋敷図』、『姫路御城廻侍屋敷新絵図』）は姫路市立城郭研究室所蔵。『幾蔵図冊』（姫路市立城内図書館所蔵）から、野里門・久長門跡の図を一部加工。発掘状況の写真は姫路市埋蔵文化財センター所蔵。その他写真は城郭研究室所蔵。

# 姫路城城下町を巡る（北東部）



「姫路城下町絵図」（17世紀中頃）

姫路市立城郭研究室/姫路市埋蔵文化財センター

### ① 日本城郭研究センター

絵図によると、姫路城野里門内の武家屋敷地にあたる。昭和62年度に実施した発掘調査の結果、近代以降の削平が著しかったものの、弥生時代から江戸時代の遺構を確認した。検出した街路や区画溝の位置は、18世紀中頃に作成された絵図「姫路侍屋敷図」の描写とほぼ合致している。



※現在、遺構の見学はできません。

### ② 野里門跡北側発掘調査

城の北東にあたるこの場所には、かつて正覚寺が位置していた。令和3年度に行われた発掘調査では、江戸時代の礎石や瓦溜りなどが見つかった。とくに瓦溜りからは、瓦当文様に「正」の字をあしらった軒丸瓦や鳥衾が出土し、これらは正覚寺の伽藍に使用されたものと考えられる。



※現在、遺構の見学はできません。

### ③ 雲松寺

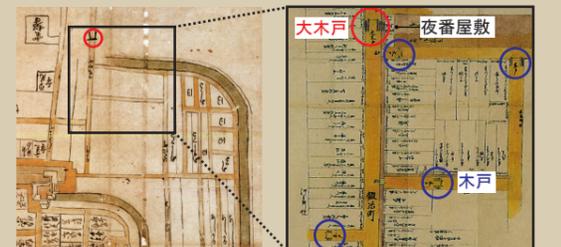
池田輝政の城下町整備により、威徳寺町から現在地に移ったと伝わる。その際、天台宗から臨済宗妙心寺派に改宗。その後、承応元年(1652)の火災で境内建物が焼失すると、明暦3年(1657)に再興され、臨済宗黄檗派に転じる。黄檗山萬福寺の末寺で、播磨における黄檗宗布教の中心的役割を果たしてきた。



雲松寺

### ④ 大木戸跡

外堀の堀留横に設けられた木戸で、鍛冶町と野里寺町の境であると同時に城外と外曲輪の境でもある。城下町の町境、およそ30ヶ所に木戸が設けられていたが(那波家文書「播陽姫府町方控覚」)、大木戸は鍛冶町特有のもので、夜番のための屋敷も併設されていた。



『姫路城下町絵図(1667~1682)』『鍛冶町絵図(1627~1753)』に描かれた大木戸  
大木戸および木戸(姫路市史3巻付図)

### ⑤ 正明寺

天台宗の古刹。寺内には、明治9年(1876)に姫路城内で発見され、同寺に移設された貞和2年(1346)弥陀一尊板碑(県指定文化財)がある。この板碑は赤松氏の姫路城築城説の根拠となった。また黒田氏築城説の根拠となる「姫路御構」と記述のある土地売券が伝えられる。



正明寺

弥陀一尊板碑

### ⑥ 淳心街路遺構

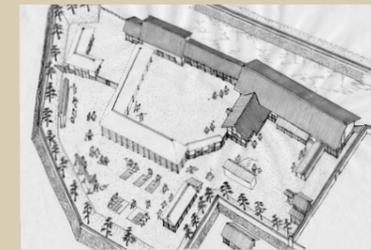
城の東側にあたるこの場所は、絵図によれば中・上級武士の居住域で、「下岐阜町」と記された南北街路が描かれている。淳心学院整備事業に伴う発掘調査では、幅約6mの街路とその両側に敷設された石組み側溝が見つかった。街路の機能時期は、池田時代にまで遡ると考えられている。



※現在、遺構の見学はできません。

### ⑦ 御作事場

江戸時代、姫路城の修理・補修を担う職人の拠点となった場所。左官小屋・大工小屋などの職人の詰所や、瓦小屋・葦小屋・すさ小屋・材木小屋・板小屋・縄小屋などの材料置場、絵図所・絵図小屋などの資料保管場が設けられていた。現在は、姫路市立動物園の一部。



御作事場整備案(城郭研究所蔵)

